

ールに播種したが、長雨、低温、種子の腐敗等のため応急対策としてフレームに苗作りとし、これを約2アールに移植し支柱をたてずに栽培し、現在1米程度に发育している。現在栽培過程にあるので、結論は報告できないが、④圃場経営、⑤農家労力の配分、⑥発芽並びに生育に対する適温、⑦現在の発芽状況より勘考して、播種適期を6月上旬としこれを8～9月に収穫終了するよう栽培することが良策と推定される。

A-57 つるむらさきの食品学的研究（第2報） 栽培について

別府大 須東 妙子

1. つるむらさきに関する各種の研究を開始して以来8年有余、その結果はそれぞれの機会において発表してきた。元来この植物は南方地域の原産であるため、研究に着手するに当たっては、わが国の気候風土でも栽培可能であることを確かめたことはもちろんであるが、研究を進めるに従い、栽培についての実験の必要性を感じたので本春来最も必要と考えられる点について計画的に実験を開始した。よって現在までに判明した結果を、ここに発表する。

2. 本春より本県農業試験場において、次項につき計画的に栽培実験することにした。①播種時期の選定、②播種あるいは移植の密度、③施肥、④圃場経営（土地利用の効率化を主とした）、⑤収量（刈取回数）、⑥原価計算について、乾燥並びに乾燥粉末に関して、①乾燥に関する問題、②粉末製造に関する問題、③乾燥粉末の原価計算等につき研究を進めることにした。

3. 本県農業試験場においては、本年4月中旬約10ア